

古事記1300年紀

古事記のふるさと田原本

安万侶さんと多



▲南小学校の石碑

古事記1300年紀催し案内(5・6月)

古事記のふるさと田原本写真展

期間 5月21日(月)～6月22日(金)

場所 奈良中央信用金庫本店ロビー

第1回記紀・万葉歴史講座

日時 6月2日(土)午後2時～

場所 町民ホール(町役場西側)

演題 第1回「古事記と安万侶さん」

講師 和田萃さん(京都教育大学教授)

定員 150人(先着順/申込不要)

参加費 200円(観光協会会員は半額)

☎ 町観光協会事務局 ☎ 34-2080

おののやすまろ

太安万侶は豪族多氏の出身で田原本の多の地に生まれ育ちました。国の役人となり、文武に優れ民部卿などの要職を務めました。多氏は葛城氏に次ぐ古代の氏族で、ここを本拠地として活躍していました。多氏の祖先を祭る多神社の神域は約900畝四方で、大神社をしのぐ大和屈指の大社でした。

江戸時代の記録によると、今の田原本町南部から西部、東部それに橿原市北部にかけて30もの宮郷があり、広い村々によって支えられていました。今も、「おおれんぞ」や「大とんど」などの伝統行事や祭礼は宮郷によって支えられています。

太安万侶もこの地に住んでいました。多の集落の南には、かつて多一族の屋敷があったと伝えられている「大上院」という地名が、小字として残っています。また、その西の小字「松ノ下」には安万侶の墓と言い伝えられている小さな塚が近鉄電車の線路沿いに祭られ



イメージ：奈良県ホームページ「記紀・万葉でたどる奈良」より

ています。また、多氏は雅楽の祖としても知られています。9世紀中ごろに活躍した多臣自然麻呂は舞楽・神楽の元祖といわれています。一族には音楽に関係する人が多く、宮中の雅楽をつかさどってきました。明治時代に「鉄道唱歌」を作曲した多梅雅の功績を刻んだ石柱が、多神社の鳥居を入ったところに建っています。境内には、歌人の川田順が訪れて詠んだ太安万侶をたえる歌碑があります。また、多の子どもたちが通う南小学校には、正門を入ったところに明治100年を記念して建てられた太安万侶をたえる大きな石碑があり、子どもたちの成長と学業を毎日見守っています。

町観光協会事務局

編集後記

■本年度から入庁し、広報紙の編集に携わることとなりました。少しずつ仕事を覚え始めてきていますが、わからないこともまだまだ数多くあり、先輩方には多くの苦勞をかけるばかりです。しかし、町民の皆さまのお役に立つ情報を発信し、楽しんでお読みいただけるような広報紙を作れるよう努力しますので、どうぞよろしくお願ひします。昂

■田原本町5園サッカー大会の取材。望遠で園児たちの写真を撮ろうとすると、レンズからサツといなくなる。グラウンドに目をやると前に蹴ったボールを懸命に追いかける姿が…。終盤も動きが鈍らず、生き生きとプレーしていました。30歳を過ぎた私は、たった10分間のフットサルの試合でバテバテに。底なしの体力にあやかりたい。永

今月の表紙

お口の中は、きれいかな？



3月8日、県歯科医師会が主催する歯の健康普及運動「たんぼぼ運動」が公民館研修室(青垣生涯学習センター内)で行われ、3歳児～就学前の子どもと保護者の計76人が参加しました。歯磨き指導では、染め出し剤を歯に塗り、歯垢が付着していることを鏡で確認。歯科衛生士に歯磨きの方法を教えてもらいながら、丁寧に歯垢を取り除きました。

